

第6学年 音楽科学習指導案

ろ組 男子 19 名 女子 19 名 計 38 名
指導者 五代 香 織

1 題 材 世界の音楽を味わおう

教材 ◎雅楽「越天楽」
「越天楽今様」 日本古謡／慈鎮和尚作歌
◎世界の音楽

2 題材について

(1) 題材の位置とねらい

これまでに子どもたちは、第5学年題材「日本の音楽を味わおう」において、歌詞の内容や旋律の特徴が醸し出す曲想の違いを生かした歌い方を工夫したり、我が国の音楽の特徴を生かして旋律をつくったりする活動を通して、我が国の音階や旋律の特徴を生かした歌い方や演奏の仕方を工夫することの楽しさを味わってきている。さらに子どもたちは、多様な音楽の特徴を感じ取って表現したり聴いたりしたいという欲求が高まってきている。

そこで、ここでは、世界の音楽や我が国の伝統的な音楽を表現したり鑑賞したりする活動を通して、旋律の感じや歌声の響き、楽器の音色などの特徴を感じ取って聴いたり、音楽の仕組みを生かして表現したりする能力を育てるとともに、世界の音楽や我が国の伝統的な音楽に関心をもち、音楽を特徴付けている要素や音楽の仕組みに着目しながら、多様な音楽を比較して聴いたり表現したりする能力を高めることをねらいとして、本題材「世界の音楽を味わおう」を設定した。

ここでの学習は、音楽の特徴や仕組みを踏まえながらそれらの多様性を感じ取り、よさや美しさを味わいながら聴いたり表現したりする能力を育てる中学校の学習へと発展していくこととなる。

(2) 指導の基本的な立場

世界の音楽の旋律の感じや歌声の響き、楽器の音色などの特徴を感じ取って聴いたり、表現したりする能力を高めるためには、共通点や差異点のある複数の楽曲を聴き比べる活動を通して、それぞれの音楽の特徴や、音楽の仕組みがもたらすよさや面白さ、美しさを感じ取ることが効果的である。特にこの期の子どもたちには、音楽の仕組みに意識を向けながら、楽曲の特徴や演奏のよさ、面白さについて感じ取ったことを、言葉や体の動き、音楽などで表し、それぞれの特徴を生かして表現したり鑑賞したりしていくことが大切である。

具体的には、まず、雅楽「越天楽」を取り上げる。この楽曲は、数ある雅楽曲の中で最も広く知られており、日本古来の楽器が醸し出す雅楽の独特な音の響きを味わうのに適している。そこで、ここでは、我が国の音楽の特徴を感じ取り、そのよさや面白さを味わえるようにする。

次に「越天楽今様」を取り上げる。この楽曲は、雅楽「越天楽」の旋律に歌詞を付けた流行歌で、今に残る我が国の最古の歌謡とされている。また、和楽器の響きを模した編曲がなされており、表現を通して我が国に古くから伝わる音楽に親しむことができる。そこで、ここでは、雅楽の独特な旋律の流れを感じ取って、音楽を形づくっている要素やその働きを感じ取って表現を工夫したりする喜びや楽しさを味わうとともに、世界の音楽へと関心を広げていくことができるようにする。

さらに、世界の音楽を鑑賞する。ここで扱う楽曲は、世界各地の代表的な音楽で、特色ある楽器の音色やリズム等が用いられ、それぞれの国や地域が大切にしている音楽文化に触れることができると同時に、そこから違った雰囲気や独特の味わいを感じ取ることができる。そこで、ここでは、我が国の音楽の特徴と比較しながら鑑賞することで、それぞれの違いやよさを感じ取り、生活や文化とのかかわりを感じ取ることの喜びや楽しさを味わえるようにする。

このような学習を通して、子どもたちは、我が国や世界の音楽のよさや面白さ、美しさを味わいながら、音楽を形づくっている要素やその働きを感じ取ったりしながら表現したり鑑賞したりすることへの関心・意欲を高め、音楽と豊かにかかわっていかうとする態度を養うことができる。

(3) 子どもの実態（調査対象 6年ろ組 男子19名 女子19名）

本学級の子どもたちの実態は次の通りであった。

①	世界各地の音楽について学習するのは楽しいと思いますか。 はい (25) いいえ (13)
②	その理由を教えてください。(複数回答) 【「はい」の理由】 ・その地域独特の音楽や文化に親しめるから (10) ・いろいろな音楽があって面白いから (6) ・日本との違いを比べられて楽しいから (6) ・自分の視野が広がるから (2) ・言葉を知ることができるから (1) 【「いいえ」の理由】 ・言葉が難しく、理解できそうにないから (7) ・日本の音楽の方が好きだから (3) ・きいてもどんなところがよいか分からないから (2) ・よく知らないから (1)
③	日本や、世界各地の音楽について学習するとき、どのように学習を進めていきますか。(複数回答) ・その曲の特徴を考えて、比べながら表現したり鑑賞したりする(声や楽器など) (23) ・曲に応じて歌い方を変える(4) ・発音に気を付ける (4) ・場所や様子を思いうかべて聴く(3) ・どのような背景でできたかを考える(2) ・どの音楽もよさがあるということを考える(1) ・歌詞を覚える(1) ・無回答(3)
④	日本の音楽の特徴(複数回答) ・和楽器が使われている(13) ・ゆっくりでなめらかな感じの曲が多い(9) ・悲しい感じ(4) ・演歌(3) ・木の楽器が多い(2) ・音が限定されている(2) ・地味(2) ・活気がある(祭りの曲)(2) ・音が小さい(2) ・しぶい(1) ・わからない、無回答(2)
⑤	世界各地の音楽の特徴で知っていること(複数回答) ・知らない(8) ・リズムがいい(6) ・その国の言葉(5) ・テンポが速い(5) ・楽しい(3) ・その国の楽器(3) ・音が大きい(3) ・サンバ(1) ・踊りの音楽(1) ・いろんなジャンルがある(1) ・なめらかでおだやか(1) ・無回答(2)

①②から、子どもたちの多くが世界各地の音楽を学習することについて「楽しそうだ」と感じており、様々な音楽文化に触れられるよさや、自分の視野を広げられるよさを理由に挙げている。一方、「楽しいと思わない」と答えた子どもたちの理由として、言葉の難しさへの不安や、**音楽のよさや面白さを見いだせない等が挙げられた**。そこで、世界の音楽の多様な表現や、そのよさや面白さを味わわせながら、活動に取り組ませていく必要がある。

③から、音楽を形づくっている要素を基に、表現したり鑑賞したりしようとする子どもたちが多く見られるが、それらのよさや面白さを味わおうとするところまでは至っていない。それは、出会った音楽が音楽の学習だけで終わってしまい、自分の生活とのかかわりがないからと考える。そこで、楽曲を分析するのにとどまるのではなく、それぞれの楽曲が、生活や文化に深くかかわっていることなどを実感できるようにする必要がある。

④⑤から、我が国の音楽については、既習経験から様々な特徴を感じ取っているが、世界各地の音楽については、ほとんど知らない子どもが多い。また、イメージだけで音楽をとらえている子どももいる。さらに、音楽の仕組みについてはほとんどの子どもが特徴として挙げていない。そこで、多様な音楽に触れさせるとともに、音楽の仕組みに着目できるようにする必要がある。

(4) 指導上の留意点

以上のようなことをふまえて、指導にあたっては次のようなことに留意したい。

- ア 子どもたちが音楽のよさや面白さを実感できるようにするために、**実際にその音楽が演奏される時の写真や映像を準備することで、音楽と生活や文化とのかかわりを実感できるようにする。**
- イ 子どもたちが、音楽を形づくっている要素とそこから醸し出されるよさや面白さ、美しさを感じ取ることができるようにするために、**楽曲を繰り返し聴いたり、感じたことを言葉で表したりするような場を設定する。**
- ウ 子どもたちがそれぞれの音楽のよさや面白さ、美しさに気付き、音楽の仕組みに着目できるようにするために、子どもたちが楽曲に接して感じ取ったことの原因を音楽の中から見つけるようにしたり、歌ったり楽譜を見て視覚的に確認したりするような活動を取り入れる。

3 目 標

- (1) 日本の伝統音楽や世界の音楽に関心をもち、それぞれの音楽の特徴を生かして、進んで活動に取り組むことができる。
- (2) 音楽を特徴付けている要素や音楽の仕組みに着目しながら、いろいろな音楽を比較して聴いたり表現したりすることができる。
- (3) 世界の音楽の旋律や響きの特徴を感じ取って聴いたり、表現したりすることができる。

4 指導計画（全7時間）

過 程	時	教材	主 な 学 習 活 動	教師の働きかけ
課題把握 課題追求Ⅰ	1	雅楽「越天楽」	音楽の特徴に気をつけてきこう。 ○ 雅楽「越天楽」を鑑賞し、気付いたことや感じたことを話し合う。 ○ 教科書の写真や映像を見て、雅楽の演奏の様子や楽器について知る。 ○ それぞれの楽器の特徴や役割に気を付けて聴く。	○ 音楽が当時の生活や文化とかわっていたことを実感できるようにするために、平安時代の華やかな暮らしを想像することができるような挿絵などを提示する。 ○ 雅楽特有の演奏の仕方（笙、羯鼓、鉦鼓の響き）を生かして演奏できるようにするために、雅楽「越天楽」の演奏を映像で鑑賞する。
課題追求Ⅱ	2	「越天楽」様	曲の感じを生かして歌おう。 ○ 範唱を聴いて話し合う。 ○ 曲の背景について話を聞いたり、挿絵を見て話し合ったりする。 ○ 旋律把握をする。 ○ 歌詞を朗読する。 ○ 歌詞唱する。	○ 日本の楽器に親しませるために、箏の演奏を体験させる。 ○ 音量のバランスのとれた演奏になるよう、次の編成を基本とする。 ・ 箏 1人 ・ 和太鼓 1人 ・ 鍵盤ハーモニカ 3人 ・ トライアングル 1人 ・ 歌・リコーダー 4人
	3・4		雅楽の特徴を生かして演奏しよう。 ○ 使用する楽器について話し合う。 ○ 雅楽「越天楽」の映像を鑑賞し、雅楽特有の奏法について話し合い、自分たちの演奏に生かせそうなことを考える。 ・ 鍵盤ハーモニカ→カンニングプレス ・ トライアングル→響きを止める ・ リコーダー→ずり上がり ○ 楽器分担をして演奏する。	○ 日本音楽独特のよさ（間の取り方等）や、合わせるための工夫に気付かせるために、オーケストラ等のような指揮者を置かない雅楽の演奏の配置で演奏を体験する。
課題追求Ⅲ	5	世界の音楽	世界の音楽の特徴に気を付けてきこう。 ○ 世界各地の音楽を鑑賞し、それぞれの特徴を話し合う。 ・ アリラン・・・演歌に似た歌い方 ・ ケチャ・・・リズムの繰り返し ・ ガムラン・・・打楽器による編成 ○ それぞれの楽器の音色の特色や、音楽の仕組みについてまとめる。	○ 楽曲に対する関心を高めるために、曲名やどこの国や地域の音楽であるかは知らせずに聴かせるようにする。 ○ 他の国や地域の音楽について他に知っているものはないか子どもに尋ね、地域を広げていくようにする。
	6		世界の音楽の特徴やよさを紹介しよう。 ○ 興味をもった音楽について、特徴やよさを見つける。	○ 音楽の特徴やよさを感じ取ることができるようにするために、CDプレーヤーを班ごとに設置し、繰り返し聴くことができるような場を設定する。
まとめ	7（本時）		世界の音楽の特徴やよさを味わおう。 ○ 世界の音楽の紹介をしながら鑑賞し、それぞれの音楽のよさや面白さについてまとめる。 ・ 世界の音楽は日本のように生活とつながっているものが多いな。 ・ 他にもいろいろな音楽をきいてみたいな。	○ 音楽に対する感じ方や考え方を明確にするために、それらについて言葉で表したり、友だちと交流したりするような場を設定する。 ○ 音楽と豊かにかかわっていけるようにするために、今後の学習や生活とのかかわりという視点をもたせて振り返りをさせるようにする。

5 本 時（7／7）

(1) 目 標

- ア 多様な音楽の特徴やそのよさに関心をもち、進んで活動に取り組むことができる。
- イ 世界の様々な音楽について、それぞれの特徴の違いやよさを感じ取り、自分なりの考えをもつことができる。

(2) 本時の展開に当たって

子どもたちが、音楽を形づくっている要素とそこから醸し出されるよさや面白さ、美しさを感じ取ることができるようにするために、感じたことや考えたことを言葉で表したりするような場を設定する。また、音楽との豊かなかかわりを求め続けることができるようにするために、振り返りの過程では、生活・社会とのかかわりという視点からも本時の学習を振り返るようにする。

(3) 実 際

過 程	主 な 学 習 活 動	時間	教師の具体的な働きかけ
課題 把握	1 前時の学習を振り返る。 ・ 世界の様々な音楽について、楽器の音色や特徴を見つけた。 ・ 早くみんなにそのよさを教えたい。 2 本時の学習について話し合う。 世界の様々な音楽の特徴やよさを紹介しよう。 3 発表の仕方について確認する。 ・ 最初に鑑賞→調べたことの発表 ・ 写真を見せながら発表→鑑賞 4 グループごとに、調べた音楽についてその特徴やよさを紹介する。 ・ 馬頭琴は2年生の国語の教科書に載っている「スーホの白い馬」にも出てきます。その音色の特徴から、「草原のチェロ」とも呼ばれます。 5 発表を聴いて、紹介された音楽について自分なりの考えを発表する。 ・ 最初は、どこがいいのか分からなかったけど、日本の伝統的な音楽のように、意味があることを知ってからきくと、そんな情景が浮かぶような気がしました。 6 本時及び題材全体を振り返り、学習のまとめをする。 ・ 今まで、世界の音楽についてほとんど知らなかったけれど、友だちの紹介をきいて、いろいろな音楽や特徴があるんだなあとと思った。 ・ 他にもいろいろな音楽がありそうだ。本で調べたり、きいたりしたい。	(分) ↑ 8 ↓ 30 ↓ 7 ↓	○ 本時の学習に対する意欲を高め、見通しをもつことができるようにするために、「今日はどんな学習にしていくか」を問いかけるようにする。 ○ 前時までに調べたことを効果的に発表することができるようにするために、あらかじめ写真や音源などを準備しておくようにする。 ○ 自分たちの創意工夫が生かせるようにするために、発表形態については、いろいろな例を挙げておき、一つの型にとらわれないことができるようにする。 ○ 音楽に対する自分の感じ方や考え方を明確にするために、それらについて言葉で表したり、友だちと交流したりするような場を設定する。 ○ 我が国の音楽の特徴と世界の音楽の特徴とを比較して考えることができるようにするために、雅楽「越天楽」や「越天楽今様」で学習したことを掲示しておく。 ○ 自分の感じ方や考え方と、音楽を形づくっている要素とを結び付けている子どもの意見を全体で採り上げるようにする。 ○ 子どもたちが音楽と豊かにかわっていきけるようにするために、生活・社会とのかかわりの視点から振り返りができるようにする。
課題 追求			
まとめ			